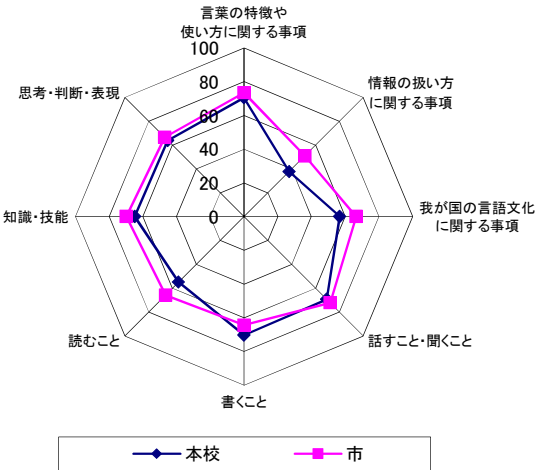


宇都宮市立白沢小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方にに関する事項	70.5	73.5	74.4
	情報の扱い方にに関する事項	37.8	51.0	51.5
	我が国の言語文化にに関する事項	56.8	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	69.4	72.3	73.7
	書くこと	70.3	64.3	66.6
	読むこと	55.0	65.8	64.9
観点別	知識・技能	64.9	69.8	70.8
	思考・判断・表現	64.0	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

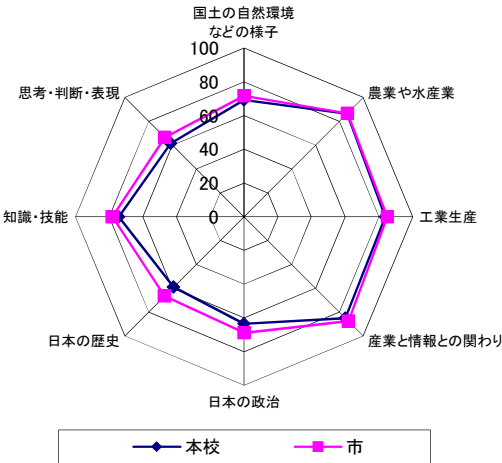
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方にに関する事項	平均正答率は70.5%で、市平均を3ポイント下回った。 ○第5学年、6学年に担当されている漢字の読み書きについての設問は、ほぼ市の平均と同じような結果であった。漢字の読み問題3問中1問は正答率が100%であった。 ●三字の熟語の成り立ちについての設問や、文と文との接続の関係についての設問では、正答率が市平均を10ポイント以上下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きについては、確実に定着を図るようにするために、授業中に小テストを繰り返し行ったり、家庭学習でドリル等を活用して取り組んだり、スモールステップの学習を継続していく。 ・漢字や語句、熟語などの理解を深めるため、国語辞典や漢字辞典の活用を習慣化する。また、教科書に出てくる言葉を一つ一つ活用できるようになるまで、授業で取り扱う時間を増やしていく。
情報の扱い方 に関する事項	平均正答率は37.8%で、市平均を13.2ポイント下回った。 ●説明文の内容を読み取り、「情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理している」設問では、正答率が市平均を18.3ポイント下回った。	・情報活用能力を高めていけるように、複数の文章を並行して読ませる活動や、複数の文章の情報を整理する活動を増やしていく。
我が国の言語文化 に関する事項	平均正答率は56.8%で、市平均を9.7ポイント下回った。 ●和語、漢語、外来語といった語句の由来についての設問では、正答率が市平均を9.7ポイント下回った。	・語句の由来や意味などについて、国語辞典や漢字辞典を活用して調べ、理解を深めていくとともに、和語、漢語、外来語に分類する練習問題に取り組ませるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は69.4%で、市平均を2.9ポイント下回った。 ○「話の内容を捉えているか」についての設問では、正答率が市平均を3.8ポイント上回っている。 ●「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えているか」についての設問では、正答率が市平均を11.3ポイント下回っている。	・学級活動での話し合いの他にも意図的に話し合う時間を設け、話し手の意図を考えながら発表内容をまとめる体験を重ねたり、司会者の様子を見て学んだりできるような活動を多く取り入れる。 ・ペア学習やグループ活動で互いの考えを交流させるなど、学び合い活動において、話すこと・聞くことへの指導の充実を図る。
書くこと	平均正答率は70.3%で、市平均を6ポイント上回った。 ○「条件に合わせて文章を書く」設問では、4つの条件とも全て正答率が市平均を上回った。 ●「目的や意図に応じて、書き表し方を工夫している」文章を選ぶ設問では、正答率が市平均を5.6ポイント下回った。	・制限時間内で字数制限のある文章を書くことへの抵抗が減るよう、作文練習をする機会を多く設定する。 ・意見と根拠を明確にして話すことについて、機を捉えて日常的に指導を行っていくとともに、意見と根拠の違いを明確にした文章の型を身に付けられるように丁寧に指導していく。
読むこと	平均正答率は55%で、市平均を10.8ポイント下回っている。 ●物語や説明文の内容を読み取る設問では、すべての問題で市平均を下回っている。	・物語文や説明文などの文章を自分の力で読み取り、全体の内容を捉える力を高めるために、読書習慣を付ける取り組みや読書量を増やす取り組みを強化する。 ・様々な種類の文章を読む機会を意図的に設定する。 ・物語や説明文の内容を読み取り、要旨を書く活動を充実させる。

宇都宮市立白沢小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	69.2	71.6	69.6
	農業や水産業	86.5	86.7	83.7
	工業生産	83.8	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	85.1	87.7	77.4
	日本の政治	63.5	68.9	71.7
	日本の歴史	59.1	66.7	66.3
観点別	知識・技能	74.2	78.0	76.7
	思考・判断・表現	61.5	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

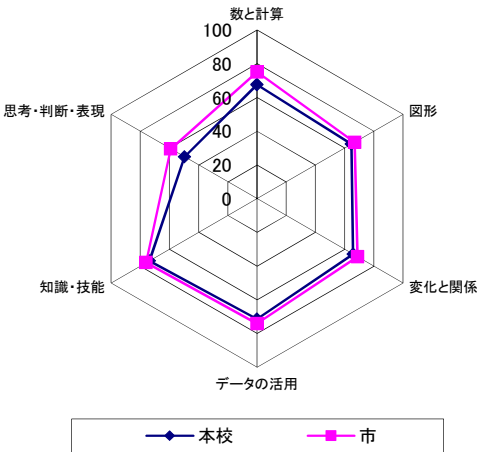
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	領域の平均正答率は69.2%で、市平均より2.4ポイント低い。 ○沖縄県での自然環境を守る取り組みについての設問は、市平均よりも8.5ポイント上回っている。 ●国内の林業が抱える問題についての設問は、市平均よりも8.2ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日本国内の気候の特色などに目を向けて、資料集や地図帳などの各種資料を積極的に活用したり、重要なキーワードや概念をノートにまとめたり、友達に説明させたりして、理解が深まるようにする。
農業や水産業	領域の平均正答率は86.5%で、市平均より0.2ポイント低い。 ○米の生産の工程についての設問は、市平均よりも2.2ポイント上回っている。 ●水産物の流通の工夫について、資料をもとに判断する設問は、市平均よりも4.4ポイント下回っている。	・普段の授業の中で、資料から読み取れることを自分なりに解釈する機会を作っていく。 ・習得した知識を資料を活用して表現できるように、地図やグラフなど複数の資料を読み取る機会を作っていく。
工業生産	領域の平均正答率は83.8%で、市平均より1.2ポイント低い。 ○自動車の製造工程についての設問は、市平均よりも2.6ポイント上回っている。 ●日本の工業の特色について資料をもとに表現する設問は、市平均よりも5.8ポイント下回っている。	・普段の授業の中で、資料から読み取れることを自分なりに解釈する機会を作っていく。 ・資料から読み取れたことを文章にすることに課題があるので、グラフの項目で注目すべき点を児童が分かるように指導し、資料の見方への理解を深めるようにする。
産業と情報との関わり	領域の平均正答率は85.1%で、市平均より2.6ポイント低い。 ●さまざまなメディアの特徴についての設問では、市の平均よりも4.4ポイント下回っている。	・情報生産が私たちの生活に密着したものであることに気づかせるため、調べ学習を通して自分の考えをまとめ、資料を活用して表現する活動を取り入れる。
日本の政治	領域の平均正答率は63.5%で、市平均より5.4ポイント低い。 ○国民と国会と内閣の関係について図を読み取る設問では、市平均よりも3.9ポイント上回っている。 ●天皇の地位についての設問では、市平均よりも11.6ポイント下回っている。 ●内閣の働きについての設問では、市平均よりも10.0ポイント下回っている。	・学習で得た知識や考え方を他の教科と結び付けたり、新聞記事やニュース映像などを取り上げ、政治と日常生活のつながりに気付かせたりすることで、学習の定着を図れるようにする。
日本の歴史	領域の平均正答率は59.1%で、市平均より7.6ポイント低い。 ○鉄砲の伝来についての設問では、市の平均よりも4.2ポイント上回っている。 ○江戸時代の鎖国の窓口についての設問では、市の平均よりも14.5ポイント上回っている。 ●大王についての設問では、市の平均よりも34.3ポイント下回っている。 ●源平の戦いについて資料から判断する設問では、市平均よりも28.7ポイント下回っている。	・学年で身に付けるべき知識をより明確にし、児童が知識の確実な習得を図れるようにする。 ・各時代の主な出来事や特色、人物について、教科書や資料集などを用いて、自分なりにまとめる活動を通して理解を深められるようにする。

宇都宮市立白沢小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	67.6	75.1	75.8
	図形	64.6	66.8	68.3
	変化と関係	65.8	68.8	65.0
	データの活用	71.4	74.1	63.6
観点別	知識・技能	73.7	76.1	75.8
	思考・判断・表現	49.7	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

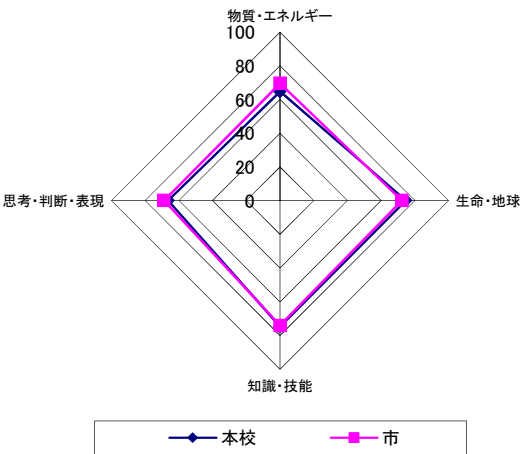
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市平均を7.5ポイント下回った。 ○真分数＋真分数の計算では、正答率が市平均より4.8ポイントと上回った。 ●分数×分数の計算(約分あり)では、正答率が市平均より16.1ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・筆算での小数点の移動や桁を揃えて書くなど、整然とした記述方法を習得するようにノート指導を繰り返す。 ・分数の掛け算や割り算での約分の精度を高めるために、九九暗記の反復練習の重要性を再認識し、下学年からの継続的な指導に力を入れる。
図形	平均正答率は、市平均を2.2ポイント下回った。 ○合同な三角形の作図では、94.6%の正答率を上げ、市平均を6.3ポイント上回った。 ●角柱の体積を求める設問では、正答率が市平均より6.9ポイント下回った。	・コンパスの操作に習熟し、豊富な作図活動が効果を上げた。引き続き具体的な操作を取り入れた活動を進めていく。 ・映像を利用した図の表示など分かりやすい授業の展開に努め、引き続きパソコンを利用した指導の充実を図っていく。 ・公式の意味を理解させるために、図や具体物を用いた視覚的な指導を取り入れ、体積の概念を理解させたり、公式の導き方を考える時間を十分に確保したりしていく。
変化と関係	平均正答率は、市平均を3ポイント下回った。 ○基準量と比較量から、割合を求める設問では、正答率が3ポイント上回った。 ●表から面積と数の割合を求め、どのにわとり小屋が最も混んでいるかを考察する設問では、正答率が市平均より8.5ポイント下回った。	・具体的な場面設定を通して、割合の考え方を定着させていく。 ・割合を「全体の中の部分」という視覚的なイメージで捉えさせるために、図やグラフを用いて説明する活動を積極的に取り入れるようにする。
データの活用	平均正答率は、市平均を2.7ポイント下回った。 ○最頻値を求める設問では、正答率が市平均より0.5ポイント上回った。 ●走る距離と歩幅の平均から、ある距離を走るときにおよそ何歩かかるかを求める設問では、正答率が市平均より9.3ポイント下回った。	・問題文から必要な情報(数値や条件など)を抽出したり、図や表などを用いて、問題文の内容を視覚的に整理したりしながら、式を立てて計算し、答えを求める授業を積み重ねていくようにする。また、答えを求めるだけでなく、求めた答えが問題文の条件に合っているかを確認するように指導していく。

宇都宮市立白沢小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	64.7	69.5	65.2
	生命・地球	74.7	72.3	70.1
観点別	知識・技能	74.6	74.0	70.7
	思考・判断・表現	66.4	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市平均より4.8ポイント下回っている。 ○6年の学習内容「物の燃え方」では、「気体の体積の割合を答える設問」において、市平均よりも11.2ポイント上回っている。 ○5年の学習内容「ふりこのきまり」では、「ふりこの周期はふりこの長さに依存することを理解しているか問う設問」において、市平均よりも2.0ポイント上回っている。 ●5年の学習内容「物の溶け方」では、「グラフを読み、食塩とミョウバンの水への溶け方について指摘する設問」において、市平均よりも13.1ポイント下回っている。 ●5年の学習内容「電流のはたらき」では、「電流の向きを変えたとき、電磁石がどの向きを向いて止まるか答える設問」において、市平均よりも12.4ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・定期的に前学年までの学習内容を復習したり、当該学年で学習する内容と関わりのある前学年までの既習事項を想起させたりして、学習内容の定着を図る。 ・表やグラフ、観察したことなどの結果の見方や、結果からどんなことが分かるのか、どのように考えられるのかを自分の言葉で説明したり書いたりして考察する力が身に付くような学習活動をこれからも続けていく。
生命・地球	平均正答率は、市平均より2.4ポイント上回っている。 ○6年の学習内容「月と太陽」では、「実験から、和歌がよまれたときの月の形を推測する設問」において、市平均よりも24.0ポイント上回っている。 ○5年の学習内容「流れる水のはたらき」では、「仮説が正しいといえるための結果を推測する設問」において、市平均より12.8ポイント上回っている。 ●5年の学習内容「流れる水のはたらき」では、「雨量と水位の関係をグラフから読み取り、指摘する設問」において、市平均よりも8.0ポイント下回っている。 ●6年の学習内容「月と太陽」では、「結果から、日によって月の形が変わって見える理由を考察する設問」において、市平均よりも7.3ポイント下回っている。	・表やグラフ、観察したことなどの結果の見方や、結果からどんなことが分かるのか、どのように考えられるのかを自分の言葉で説明したり書いたりして考察する力が身に付くような学習活動をこれからも続けていく。 ・「月と太陽」のように、実際に自分で調べたり、実験したりすることが難しい学習内容は、身近にある道具(ボール、懐中電灯など)を使ったり、動画を利用したりして、視覚的に分かりやすく理解できるように授業を工夫し、確実な理解の定着を図る。

宇都宮市立白沢小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学び合い活動の充実	全学級で、発達段階や場面に合わせて、ペア・トリプル・グループの話し合い活動を多く取り入れ、表現力や思考力が身に付くように指導している。	全教科「思考・判断・表現」の観点で、平均正答率が市平均より下回った。算数では、市平均より9.3ポイント下回った。
言語活動の質的向上	毎週火曜日の朝の学習の時間を言葉の時間と設定し、各学年で発達段階や実態に合わせて、語彙力・書く力を高めるための取組を行っている。また、授業では、振り返りの時間を確保し、文章で表すことを習慣化させた。	国語では、「書くこと」の領域で平均正答率が、市平均より上回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

学習と生活に関するアンケートの結果から、学年差はあるものの、児童が学習の必要性を感じながら、夢や目標を持って学習に取り組む姿勢がうかがえる。しかし、6年生の学習内容定着度調査の結果からは、基礎学力不足が課題として見受けられる。そこで、次年度は、児童の学習意欲を高めるための工夫や、家庭学習の習慣化を促すための具体的な方法について、教員間で共有し、連携して取り組んでいくと共に、学校課題について検討し、児童にとって分かりやすい授業を展開できるよう授業改善を図り、基礎学力の定着を目指したい。